

経営者と従業員のコミュニケーション向上への取組を積極的に行っている中小企業

兵庫県尼崎市の株式会社ヤマシタワークス(従業員48名、資本金1,000万円)は、主に金型及び部品の製造・加工、自社開発による鏡面加工装置の製造・販売等を行う中小企業である。同社は、自社開発した鏡面加工装置「エアロラップ」の技術を評価され、(財)日本発明振興協会・(株)日刊工業新聞社が主催する「第34回発明大賞」において発明大賞本賞を受賞し、2006年元気なモノ作り中小企業300社にも選定されている。

従業員のほとんどは、入社当初はモノ作りを知らない素人ばかりであるが、同社の山下健治社長が先頭に立ち、日々のOJTで従業員にモノ作りに必要な技術を伝授している。山下社長は、経営者が従業員一人ひとりのコミュニケーションを図ることが非常に重要と考えており、日中、自分のデスクにいることはほとんどなく、時間があれば工場に足を運び、従業員の働く様子を確認している。同社の工場内は作業スペースを壁等で区切っておらず、作業している従業員の様子を一望できる構造となっている。普段と様子の違う従業員がいれば、個別に声をかけて相談に乗るなど、従業員に対して常に気を配っている。そのような取組を通じて、従業員からの意見に積極的に耳を傾ける機会を設けるとともに、もっともな意見については、その対応のためにすぐに行動に移すなど、経営者と従業員との風通しは非常に良い。「従業員一人ひとりにまで経営者の目が行き届くのは、50人という小さな従業員規模だからこそできることである。」と山下社長は語っている。

従業員の山下社長に対する信頼も厚く、経営者と従業員の一体感は非常に高い。以上のような取組が評価され、「雇用創出企業1,400社」(コラム3-1-1参照)にも選出されている。こうした企業風土が、従業員の意欲と能力を高め、モノ作りの世界で優れた成果を生み出すことを可能にしていると考えられよう。



従業員を指導する山下社長